

第5学年「日本の音楽に親しもう」郷土素材の教材化を図った実践

国分市立青葉小学校 宮田裕子

1 日本の伝統音楽の意義

鹿児島には、わらべ歌や民謡、民俗芸能などのさまざまな音楽がそれぞれの地域で歌い継がれてきている。これらの中には、素朴さ、優雅さ、力強さなど心うつ音楽が多い。このような地域に伝わる身近な伝統音楽や親しみのある和楽器を使った音楽を学習することは、自国の音楽文化を理解し、尊重するとともに、国際化の観点からも意義深いことである。また、五感を使った表現と鑑賞の学習活動は、日本の伝統音楽に対する興味・関心を高め、学習意欲を引き出す上でも意義深い。

2 「日本の音楽に親しもう」第5学年授業の実践

(1) 題 材 日本音楽に親しもう

(2) 教 材 「子守うた」 … 日本古謡
「日本の民謡」 … おはら節、ハンヤ節、江差追分、八木節、谷茶前
「祭りばやし」 … 川崎祥悦 作曲

(3) 目 標

- ① 日本の伝統音楽の音色や響を聴いたり表現したりして、特性を感じ取ることができるようにする。
- ② 日本の伝統音楽のよさを感じ取り、身近な生活の中でも親しむことができるようにする。

(4) 評価規準

- ① 日本の音楽に関心を持って聴いたり、表現したりしようとすることができる。 【音楽への関心・意欲・態度】
- ② 日本のふしの特徴やリズムの特徴を感じ取って、表現の工夫をすることができる。 【音楽的な感受や表現の工夫】
- ③ 楽器の音色や特徴を生かした演奏の工夫ができる。 【表現の工夫】
- ④ 日本の音楽や郷土の音楽のよさを味わって、聴くことができる。 【鑑賞の工夫】

(5) 評価項目

- (1) 音楽への関心・意欲・態度
 - ① 日本の伝統音楽に関心を持ち、進んで聴いたり表現したりしようとしている。
 - ② 日本の楽器や雰囲気を楽しみ、意欲的に演奏している。
- (2) 音楽手名感受や表現の工夫
 - ① 日本の伝統音楽の特徴を感じ取り、工夫し表現している。
 - ② 日本の歌の感じや響きをとらえて表現している。

(3) 表現の技能

- ① 戦慄の動きや音の感じをとらえて、歌ったり演奏したりすることができる。
- ② 音の響きを聴き合って演奏することができる。

(4) 鑑賞の能力

- ① 日本の楽器の特徴や音楽の感じをとらえて聴くことができる。
- ② 音の重なりや絡み合いの面白さを味わって聴くことができる。

(6) 題材について

① 題材の価値

本題材では、日本各地の民謡を鑑賞し、使われている楽器や音色、歌詞や楽曲のもつ雰囲気を感じ取ったり、和太鼓や鐘、チャップー、木魚、リコーダー、鍵盤ハーモニカなどの楽器で「祭りばやし」のお囃子を合奏によって表現したりする活動をとおして、日本の音楽をより身近なものとしてとらえることができる。また、鹿児島県の民謡「ハンヤ節」で竹を使った表現活動を取り入れることでさらに、日本の音楽を体感することができる。それとともに、音楽生活を幅広いものにしていこうとする態度を育てることをねらいとしている。

② 子供の実態

これまでに子どもたちは、音楽学習時間の始めや集会等の時間に、友達同士や異学年でわらべ歌で遊び、日本の音楽にふれてきている。また、地域にある伝統芸能として太鼓踊りやお田植え祭などがあり、校名の由来になった「青葉の笛」(竜笛)も使われていることから、年に数回ではあるが、日本の音楽の響きは耳にする機会がある。

日本の楽器について、子どもたちは「太鼓」「三味線」はよく知っているもののその他の楽器について知る子どもはほとんどいなかった。また、身近に和楽器を見たり、実際にふれるという経験がないことから、「日本の音楽」についてのイメージは「つまらなそう」「退屈」「おもしろくない」「よくわからない」などの感じをもっている。鹿児島県の民謡については「おはら節」「ハンヤ節」という曲名は出てこないが曲を流すと「知ってる」「国分が出てくる歌だ」「聴いたことがある」などといった反応が返ってきた。

これらのことから、日本の音楽に対する子どもたちの興味・関心は低く、学習に対しての意欲が見られないのが現状である。

(7) 指導の手だて

① 「見とおす」場面

日本の音楽の響きを楽しむために、既習曲の「うさぎ」「さくらさくら」「ひらいたひらいた」などの音楽で楽しみ、聴いてみたい各地の民謡を鑑賞し、鹿児島県の民謡「おはら節」には国分のタバコが歌詞に入っていることに気づくように支援する。その際、歌詞カードを準備し、興味のある民謡の歌詞を自由に取ることができるように、教室の横にコーナーを設置する。また、運動会で披露してくださった重久地区の「太鼓踊り」を視聴して使われている楽器や踊りなどに着目させる。

② 「高める」場面

民謡にあうお囃子を表現するために、教科書にある「祭りばやし」を練習する。4～5名のグループを作り、宮太鼓や平太鼓、ユニット太鼓、チャップー、鉦、木魚、リコーダーを使って和太鼓の音色や響き、独特のリズムを味わうようにする。

③ 「生かす」場面

前場面で学習したことをもとに「ハンヤ節」で竹を使った表現活動をする。約20名の竹の他に和太鼓、木魚、チャッパー、鉦などの楽器を分担し、各グループで息を合わせて集中した練習ができるよう分散した練習場所を確保する。(竹グループは音楽室横の多目的ホールを使用)ビデオ録画して和太鼓グループは、リズムや演奏の仕方、格好など。竹グループは、足の開きや竹の竹の動かし方、掛け声など、それぞれのグループで振り返る場面をもつようにする。「ハンヤ節」のふしはCDを使用する。

④ 「まとめる」場面

「ハンヤ節」のCDに合わせて、和太鼓、鉦、チャッパー、木魚グループの演奏に続き、竹の表現を合わせる。(ビデオ録画)また、学習のまとめとして「ハンヤ節」の表現や最初に見た郷土に伝わる「太鼓踊り」を再度視聴して日本の伝統音楽の特性を感じ取れるようにする。

(8) 指導計画

過程	時	教材	主な学習活動	教師のはたらきかけ
見 と お す	1	「子守り歌」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 2つの子守り歌を情景を思い浮かべながら聴いたり歌ったりしよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 2曲を歌い比べてふしの感じの違いについて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「何だか変な感じだね」「今まで歌ってきた歌とどこか違うね」など、これまでにふれた音楽との違いを感じ取れるような言葉かけをする。 ○ 校区にあるタバコ栽培がおはら節の1節に出てくることに気付くように、歌ったり歌詞カードを活用したりする。合わせて、ハンヤ節の軽快なリズム注意して聴くよう支援する。 ○ 各地方の民謡にもふれ日本の音楽に親しむよう支援する。 ○ 地域の太鼓踊りのVTRを視聴しいろいろな演奏方があることを知らせる
	2	「日本の民謡」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 「おはら節」や「ハンヤ節」、各地の民謡を聴き、伝統音楽の特徴を感じ取ろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「おはら節」を聴いたり歌ったりしながら、歌詞にタバコ栽培が入っていることに気付く。また、どんなときに歌われるかについても話し合う。 ○ 各地の民謡を聴いて歌声や使われている楽器などについて話し合う。 	
高 め る	3 ・ 4	「祭りばやし」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 祭りの感じを生かして、「祭りばやし」を練習しよう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ○ グループに分かれて太鼓のリズム打ちやリコーダーを練習する。 ○ 太鼓とリコーダーを合わせて練習する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 宮太鼓や平太鼓、ユニット太鼓を使ってリズムや打ち方ができるように指導する。

生	5 ・ 6 ・ 7	「祭りばやし」 「日本の民謡」	「ハンヤ節」を竹を取り入れて表現しよう	○ 「ハンヤ節」のCDを聴かせて竹の表現を見せたり、太鼓のリズムも「祭ばやし」とは違うことに気付かせる。
	8		ビデオに録画して各グループの表現がさらに高まるようにしよう。	○ グループ内で発表し合いよかった所やアドバイスのついて話し合い、練習に生かすように支援する。
か	9	「祭りばやし」 「日本の民謡」	アドバイスを生かした練習をしよう。	○ アドバイスを生かした練習になるように支援する。
	10		竹を取り入れた「ハンヤ節」を発表しよう！（ビデオ録画）	○ 竹グループ、和太鼓グループの息が合うように支援しながら楽しんで発表できるような雰囲気づくりに努める
す	11	「祭りばやし」 「日本の民謡」	郷土に伝わる伝統芸能(太鼓踊り)や日本のふしのよさを味わおう。	○ 前時で発表した「ハンヤ節」や重久地区の太鼓踊り、止神神社のお祭りの様子を再度視聴して日本の伝統音楽のよさを感じ取るよう支援する。
	まとめ		○ 発表した「ハンヤ節」や地域の「太鼓踊り」を視聴し日本のふしの特徴について話し合い、分かったことをまとめる。	

(9)本時(8/10)

ア 目標

- 日本のふしに関心をもって聴いたり、表現したりしようとする事ができる。
- 日本のふしの特徴やリズムの特徴を感じ取って、表現の工夫をすることができる。
- 楽器の音色や特徴を生かした演奏の工夫ができる。

イ 実 際

過程	子どもの主な学習活動	時	教師のはたらきかけ
見とおす	1 前時までに練習した「ハンヤ節」を各グループで練習する。	5	○ 各グループの息が合うように支援する。
	2 学習のめあてについて話し合う <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">練習した表現を録画し、さらに上達できるようにしよう！</div>	7	○ 前時までとこれからの学習活動について確認し、本時のめあてを話し合う。 ○ 子どもの言葉を使ってめあてを表記する。 ○ ビデオ録画を視聴してさらに高まるための練習方法について話し合えるよう確認する。
高めめる	3 各グループで練習する。 ・ 個人で ・ グループ全員で	10	○ グループ内で学習方法や時間配分等について話し合うよう支援する。
	4 ビデオ録画をする。 (1) 竹グループ (2) 和太鼓グループ		○ 録画する際、リズムや格好、掛け声の大きさなど気を付けて頑張った部分に着目して、客観的に視聴できるようにPRすることも支援する。
生かす	5 視聴して、よかったところやアドバイスするところについて各グループで話し合う。 ・ リズムについて ・ 格好について ・ 掛け声について など	20	○ 各グループで視聴して、もっと上達するためにはどこに気を付けて練習したらよいか、着目点を中心に話し合えるよう支援する。
	6 アドバイスを生かした練習ができるように次時の学習活動について、話し合う。		○ 話し合ったことをまとめて、次時活動がスムーズに行くように話し合う時間をとる。
まとめる	7 各グループごとに次時の活動の確認をする。	3	○ 本時の活動についてすばらしかった点について賞賛し、アドバイスされた点を生かした練習になるように励まし、子どもと共に次時の確認をする。